

# INFORMATION



「膜電位—化学シグナルの新展開：多様性とメカニズム」

## ELECTRO-CHEMICAL SIGNALING BY MEMBRANE PROTEINS : BIODIVERSITY AND PRINCIPLE

(総合研究大学院国際シンポジウム/生理研国際コンファレンス)

膜蛋白の生理学, 構造生物学, 細胞生物学, ゲノム科学の分野で活躍する, 第一線の研究者を集め, イオンチャネルや最近見出された膜蛋白の電気化学関連機構を主なテーマとした国際シンポジウムを開催します。

講演者: Francisco Bezanilla (University of Chicago), Gunnar von Heijne (Stockholm University), Declan Doyle (SGC, Oxford University) を含む外国人 12 名, 藤吉好則 (京都大学), 月原富武 (大阪大学) ら日本人 8 名 (敬称略)

※ポスターセッションあり. 若い人の積極的な参加をお願いします。

日時: 平成 19 年 3 月 14 日 (水) 15 日 (木) 16 日

(金)

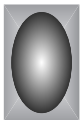
場所: 岡崎コンファレンスセンター (岡崎市自然科学研究機構内)

※詳細内容や参加登録は web を参照下さい.  
[http://square.umin.ac.jp/seiriken/index\\_j.html](http://square.umin.ac.jp/seiriken/index_j.html)

連絡先: 岡村康司 自然科学研究機構・岡崎統合バイオサイエンスセンター  
神経分化研究部門  
e-mail: yokamura@nips.ac.jp

Tel: 0564-59-5258

共催: 第 84 回日本生理学会大会  
阪大蛋白研・岡崎統合バイオ—膜蛋白連携研究プロジェクト



## 理研 BSI サマープログラム 2007 参加者募集のお知らせ

理化学研究所脳科学総合研究センター (BSI) では, 2007 年度も脳科学に関心を持った国内外の若手研究者 (大学院生, 博士研究員など) を対象としたサマープログラムを開催いたします. 詳細をホームページ (<http://www.brain.riken.jp/summer.html>) に掲載しておりますので, ご関心のある方は是非ご一読ください. ご応募をお待ちしております.

サマープログラムには, 2 ヶ月間 BSI のひとつの研究室に滞在し, 研究を実体験するインターンシップコースと, 2 週間のレクチャーコースとい

う二つのコースがあります. 今年のレクチャーコースは "Brain Science : Mystery and Mission" というタイトルで多岐に亘る脳科学の研究領域を取り扱います.

開催期日:

<インターンシップコース>

2007 年 7 月 4 日~8 月 29 日 (8 週間)

<レクチャーコース>

2007 年 7 月 23 日~8 月 3 日 (7月23日はcheck-in 日)

講師陣：

Shun-ichi Amari (RIKEN BSI)  
Terrence Deacon (UC Berkeley)  
John Donoghue (Brown Univ.)  
Aike Guo (SIBS, China)  
Zhigang He (Children's Hospital Boston)  
Masao Ito (RIKEN BSI)  
Erich Jarvis (Duke Univ.)  
Mitsuo Kawato (ATR, Kyoto)  
Akihiro Kusumi (Kyoto Univ.)  
Klaus-Peter Lesch (Wuerzburg Univ.)  
Pierre-Marie Lledo (Pasteur Inst.)  
Nikos Logothetis (MPI, Tuebingen)  
Carol Mason (Columbia Univ.)  
Katsuhiko Mikoshiba (RIKEN BSI)  
Klaus Obermayer (Bernstein Center, Berlin)  
Dennis D. M. O'Leary (The Salk Institute)

Noriko Osumi (Tohoku Univ.)  
Josh Sanes (Harvard Univ.)  
Keiji Tanaka (RIKEN BSI)  
Charles Weissmann (Scripps Florida)  
George Yancopoulos (Regeneron Pharmaceuticals, Inc.)

場 所：理化学研究所 脳科学総合研究センター  
(埼玉県和光市)

申込締切：2007年2月28日(必着)

参加申込み・問い合わせ先：

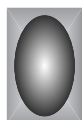
〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1

理化学研究所 脳科学総合研究センター  
サマープログラム実行委員会

<http://www.brain.riken.jp/summer.html>

FAX：048(462)4914

E-mail：info@summer.brain.riken.jp



## 平成19年度助成対象研究募集のお知らせ

全国蒲鉾水産加工業協同組合連合会(以下全かま連)では、「かまぼこ製品(水産練製品)の効用」に関する研究の募集を次の通り行ないます。

### ◆対象研究分野

かまぼこ製品(水産練製品)の血糖値抑制作用、抗癌作用、抗酸化作用、抗肥満作用に関する研究

### ◆応募申請者の資格・条件

大学、短大あるいは研究機関に所属している研究者(グループも可)

### ◆研究成果の報告

(1) 研究成果は助成期間終了後1ヶ月以内に、報告書にて全かま連に提出していただきます。(報告書の書式等詳細は助成決定後、該当者に連絡)同論文は、全かま連の年次報告書等において公表します。また、全かま連の要請により、全かま連主催の研究発表会(2008年6月予定)や講演会等で助成研究発表を行なっていただきます。

(2) 研究成果を発表する場合には、本会の助成を受けたことを付記していただきます。

### ◆助成金額・採用条件

助成金は1件につき上限120万円(年間)とし、今期は最大5件の採用を予定しています。

### ◆平成18年度採用研究題目

- かまぼこ製品の摂食による肝障害抑制効果に関する研究
- かまぼこの対糖能に及ぼす影響に関する研究—メタボリックシンドロームの一次予防を目指して—
- かまぼこ咀嚼の脳機能に及ぼす影響～近赤外分光分析法による検討～
- かまぼこおよびかまぼこ酵素分解物のヒト腸内細菌に及ぼす影響
- DNAマクロアレイを用いた“かまぼこ”を利用した伝統的日本食の栄養特性

### ◆助成期間

2007年4月から2008年3月の1年間としま

す。(疫学研究等ある一定期間の観察を必要とするものは、連続して助成することもあります。この場合も1年ごとに申請していただきます。その際は、予め年次計画書を提出していただきます。)

◆応募受付期限

2007年3月9日(金)(必着)

採否結果は申請者に直接通知いたします。(2007年3月下旬頃を予定)尚、選考内容、選考基準に関してのお問い合わせ及び提出された申請書類の返却には応じません。予めご了承ください。

◆応募方法

所定の研究助成申請書(事務局にて郵送または

全かま連ホームページ(<http://www.zenkama.com>)にフォーマットエクセルデータ掲載)に必要事項をご記入の上、事務局までご送付下さい。  
※郵送のみの受付となります。

◆応募申請書の請求及び提出先

〒102-8522 千代田区三番町3-8 泉館三番町1F (株)協同宣伝内

全かま連 研究助成事務局 担当:町田

TEL:03-5212-7966 FAX:03-5212-6913

◆申請書の請求のみメールで受け付けます。

[kamaboko@kyosen.co.jp](mailto:kamaboko@kyosen.co.jp)

(申請書は郵送・データいずれが希望かを明記して下さい。)